



春季休業中に1年間の振り返りをしましょう!!

進級する前にやるべきこと

年度末にもなり、学業成績や学校生活の振り返りの時期になっています。この1年間自分がどのように成長してきたかを自己分析してみましょう。通知票が渡されますが、1年間の成績を振り返るためにも、通知票を確認して評定平均値を自分で出してみましょう。

○ 評定について

「評定」とは各教科の成績を5段階で表したもののことです。通知票の確認簿で評定の5段階を知ることができます。自分の評点を評定に換算します。1年生は、通知票には評点の記載がなくて、評定のみが記されています。

5	4	3	2	1
100~80	79~65	64~45	44~30	29以下

○ 評定平均値の求め方

評定平均値の求め方は、履修した全科目の評定を合計し、その科目数で割るだけです。小数第二位を四捨五入して小数第一位まで求めるので、「4.3」とか「4.5」といった数字で表されます。

本来は、高1から高3までの履修したすべての科目が対象となります。

$$\text{評定平均} = \frac{\text{1年~3年までの「全教科・科目の評定の合計」}}{\text{すべての科目数}}$$

今回は、自分の1年間の学習の反省のために学年ごとの仮の評定平均値を求めます。今後の学習計画の目標とし、春休みの学習を計画的に進めましょう。

○ 1年生

1年生は、選択科目がないので、履修した科目は全員13科目です。科目の評定の合計を13で割ります。

教科	国語		公民	数学		理科	保健体育		芸術	英語		家庭	情報
科目	現代国語	言語文化	公共	数学I	数学A	生物基礎	体育	保健	音楽I	C英I	論表I	家庭総合	情報I

○ 2年生

2年生は、1年次の評定平均値も求めてみましょう。1年次の教育課程は下記の通りです。履修した科目は、全員12科目です。科目の評定の合計を12で割ります。

教科	国語	公民	数学		理科	保健体育		芸術	英語		家庭	情報
科目	国語総合	現代社会	数学I	数学A	生物基礎	体育	保健	音楽I	C英I	英表I	家庭総合	情報と社会

2年次の教育課程は、次の通りです。選択①と選択②がありますが、選択群から1科目の選択なので、履修した科目は全員12科目です。科目の評定の合計を12で割ります。

教科	国語		地理歴史		数学		理科	
科目	現代文B	古典A	世界史A	日本史B	数学Ⅱ	選択② 数学B	化学基礎	選択① 物理基礎／地学基礎
教科	保健体育		体育		芸術	外国語	家庭	
科目	体育	保健	選択② スポーツⅠ		選択② 音楽Ⅱ	C英Ⅱ	家庭総合	選択② フードデザイン

○ 評定平均値を求めたならば

評定平均を求めて、良かった、悪かっただけでなく、自分の成績を振り返り、1年間の反省をしましょう。自分の成績が上がった部分はどこか。どの様に勉強して成績を伸ばしてきたのか。また、自分の弱点はどこか。どの様にすれば、弱い部分を補えるのかを考えましょう。今年度の成績の自己分析にしっかりと取り組み、次年度の学習目標を設定し、成績を向上させる努力をしましょう。大学・短大や理系の専門学校への進学を考えている生徒は、早目の受験対策が必要になってきます。そのためにも学校の成績が芳しくないようだと合格も難しくなります。

進学希望先が明確な生徒は、その学校の推薦条件を調べておくことが大切です。今後の学習計画の目安にもなります。ただし、学校の推薦条件の評定平均値は、あくまでも最低限のレベルです。推薦条件の数値を上回っているからと学業が疎かにならないようにしましょう。

1年間の振り返りと春季休業中の過ごし方について

○ 自分の1年間の行動実績も振り返ろう。

成績以外にも、部活動・委員会活動・学校行事など1年間の実績を振り返りましょう。就職試験や推薦入試の面接で高校での生活を質問される場合が多いです。例えば、「高校での一番の思い出は何ですか。」「高校で一番頑張った事は何ですか。」などです。学年ごとに自分の行動や考え方を振り返り、今使っているノートやタブレットにメモを残しておくこと、3年生になってから、面接練習の受け答えや履歴書・志望理由書等で頭を悩ませることが少なくなります。

自分の振り返りをする際は、悪い面ばかりを見つけるのではなく、入学してから高校生活を通して成長してきたことはどんなところかを見つけ出していきましょう。学業や運動・体力といった部分だけでなく、精神的な部分でどの様に成長してきたかを振り返りましょう。過去の自分と現在の自分がどの様に成長し、違ってきているのかを確認することで、今後の成長したい自分をみつけることができます。

○ 自分を見つめ直して、自分の将来を考えよう。

成績や自分の実績を振り返ることで、自己分析や自己理解が深まっていきます。自分の特長や長所を理解することで、その特長や長所を活かした進学先や職業を考えることに役立ちます。

高校を卒業してすぐ就職する場合でも、大学・短大・専門学校に進学する場合でも、自分の興味のあることや関心のあることを自分自身が理解していないと仕事や学問に対しての意欲も長続きしないものです。

自分のやりたいことが明確になってきた生徒は、自分の進路に対して、職業研究や学部・学科調べに積極的に取り組むことができますし、保護者や担任に自分の意志を自分の言葉で話すことができ、納得もしてもらえます。

3年生になって、就職のため履歴書や推薦入試の志望理由書といった書類を作成する段階で、何を書いているのか分からない状態が無いよう、自己理解を深め、自分の将来像を探っていきましょう。

○ 保護者と一緒に進路について、考えましょう。

春季休業中、自分の将来について、保護者と話し合いをしましょう。自分の進路希望を話し、保護者の意見を聞き、お互いが納得した上での進路希望先を見つけましょう。進路希望が明確になれば、意欲も高まり、早目に受験勉強や受験対策をすることができます。保護者に学費等を負担してもらおうので、進学にかかる費用を自分でしっかりと理解し、保護者に説明できるようにしましょう。

春季休業中に進学希望先のオープンキャンパスに参加してみましょう。来校型の場合は、事前予約が必要になってきます。オンライン方式でオープンキャンパスを開催する学校も増えました。興味のある学校に複数参加して、各学校の内容を比較検討して、進路先を絞っていきましょう。